

平成 28 年度 宮城県仙台第二高等学校アメリカ研修報告書

◆第一日目：7月24日（日）

時間	報告
06:30	「青葉山交流広場」集合
07:00	専用バスにて出発
	常磐自動車道経由（2回の途中休憩）
	↓
12:10	成田田空港第一ターミナル（北ウイング）着
	チェックイン～手荷物検査、及び出国審査を滞りなく通過
14:20	搭乗ゲートを確認後、解散
15:00	再集合後、搭乗開始
15:40	定刻より15分ほど早く成田空港出発／経由地ニューヨークへ
	✈✈✈ 機内泊
※同日	＜日付変更線通過＞
15:40	経由地ニューヨーク（J・F・Kennedy 空港）着
	入国審査、乗継の荷物検査も滞りなく通過
17:00	搭乗ゲートへ移動後、解散（各自にて夕食）
20:00	ゲート前再集合（アナウンスに従い、順次機内へと移動）
21:45	定刻より45分ほど遅れて最終目的地「ボストン」へ向け出発
23:10	ボストン（ローガン空港）着
23:40	専用バスにて出発（1台）
24:00	「Fisher College（フィッシャー・カレッジ）」着
25:00	担当者からの挨拶、施設の諸注意、翌日の確認後、各部屋へ／就寝
	** 大学寮泊 **
	<p>【追記】</p> <p>日曜日の早朝にも関わらず、長島校長先生、午来教頭先生はじめ諸先生方、及び多くの保護者様のお見送りをいただき、誠に有難うございました。出発直前のバス内にいただきました校長先生からの4つのテーマ『①受け身ではなく、自ら積極的に動く。待ってはいはだめ ②体調管理（自己管理） ③二高生としてのプライドを持つ ④“協力するチーム”・・・互いに知恵を出し合い、切磋琢磨する』を、それぞれがどう理解し、研修の中で行動に移すことができるか、個々の主体的なアクションとチャレンジが楽しみです。</p> <p>また、生徒代表挨拶では、「積極的に行動する」そして「将来へつなげる研修にする」ということばがありました。あつという間のボストン滞在、「やればよかった」の後悔は持ち帰ってほしくありません。英語を駆使し、そして異なる文化と価値観を持った他国生との関わりのなかでは、うまくいわずに周囲の環境に対して以上に、自分自身との葛藤を繰り返すことでしょう。校長先生のことばを行動で昇華し、失敗をしても「やり切った」思いと、帰国後そして将来につながる何かをつかんでほしいと思います。</p> <p>経由地ニューヨーク（J・F・Kennedy 空港）発の飛行機が45分ほど遅れたために大学寮着も深夜となりましたが、国内バス移動時、そして成田空港出発後も大きなスケジュール変更や遅延、空港での諸手続きで</p>

の混乱等なく、生徒全員が元気にアメリカの地に降り立ちました。ニューヨーク（J・F・Kennedy 空港）では、週末ということもあってか国内線ロビーは人で溢れんばかり、まさに世界各国から様々な人種が集う坩堝という状況です。つまり、もうすでに「研修」として積極性を発揮するチャンスは、目の前どころか、うしろにも、いたるところにあったのですが、果敢なアタックを見せてくれたのが男子生徒 2 名だけであったのは、少し残念ではありましたが。

フィッシャー・カレッジ大学寮に到着すると、我々以外にも深夜に到着するグループがありました。中国からの 20 名ほどの生徒たちです。例年ですと、7 月後半から 8 月にかけては徐々に他国生の数が減っていく（帰国する）時期になるのですが、二高生徒さんの滞在中は、この中国からのグループを除いて、100 名を超える他国生が滞在しているとのことでした。環境への言い訳はできません、チャンスをつくるかどうか、活かすかそうでないかは、まさに自分次第です。

よく言えば趣のある佇まいの大学寮（特に悪く言うつもりはありませんが・・・）、重いスーツケースを持ち階段を上って各部屋へようやくたどり着き、明日からの戦い、いや研修に備えて就寝となりました。

あらためまして無事に研修出発を迎えることができましたこと、校長先生はじめ諸先生方、そして保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。及川先生とともに、個々の目標を達成し、チームとしても充実した研修となるよう、全力で後押しをさせていただきます。引き続き、皆様の温かいご支援、ご指導宜しく願いいたします。

以上、本日の報告とさせていただきます。

«出発「せんだい青葉山交流広場」駐車場にて»



《成田空港／出国ゲート前にて》



«J・F・Kennedy 空港にて»



«フィッシャー・カレッジ到着»

